

春季 県高校野球

第5日

春季東北地区高校野球県大会は第5日の20日、青森市の県営球場、弘前市のはるか夢球場、八戸市長根公園野球場、六戸メイプルスタジアムの4球場で3回戦8試合

を行い、ベスト8が決まった。八工大二は主戦の速攻（そくおつ）が被安打5、10奪三振で三沢を完封、2-0で投手戦を制した。東奥義塾は小刻みに加点し、三沢商に勝利。弘前東は聖ウルスラの反撃をしのぎ逃げ切った。弘前は弘前実との弘前勢対決を七回コールドで制した。青森山田、八学光星、八工大一、弘前学院聖愛はいずれもコールドで勝ち上がった。第6日の21日は、県営球場と長根公園野球場で準々決勝計4試合を行う。

（本紙取材班）

光星 七回打者一巡

▽3回戦（六戸メイプル）

本塁打を放つなど、一挙5得点を挙げた。その後は毎回得点を重ね、七回にも打者一巡の猛攻で4得点し、試合を決めた。

青森商は初回に先制、二回に追加点を挙げたが、三回以降は三塁を踏めなかった。

主砲一発流れ変える

【評】八学光星は2点を追う三回、越智の三塁打を皮切りに打線が爆発。砂子田、中澤恒の単打に続き、主砲・長谷が

○：八学光星は三回、1点を返し、なお1点を追う場面で1死一、二塁の好機に主砲・長谷が右

翼席へ3点本塁打をたたき込み、試合の流れを変えた。

右翼側に引く張る長打が持ち味だが、これまでの試合ではボールを当てに行ってしまう、打球がつまることが多かった。「きょうはどんどん行こう」とボールを引きつけて強気で振り、結果を出した。

長谷は「自分のスイングができた。チームとしても長打でつなぐ意識でみんなが持ち味を出せていたと思う」と次戦に向け弾みをつけた。